

クラス番号	347	担当教員名	斉藤 雅 茂
		他専修学生受入上限人数	2名
テーマ	社会福祉調査に基づいてエイジ・フレンドリーな社会を考える		
著書・論文	斉藤雅茂（2024）「〔特集：孤立・孤独に抗うソーシャルワーク〕ソーシャルワークの支援対象としての社会的孤立の拡がり」『ソーシャルワーク研究』2(4): (印刷中). 斉藤雅茂（2024）「〔特集：看取りのあとで〕孤立死、いまわかっていること；社会的孤立にどう向き合うか」『世界（岩波書店）』984: 152-159.		
研究課題等	Saito Masashige, Watanabe Ryota, Tamada Yudai, et al. (2024) Social disconnection and suicide mortality among older adults: a seven-year follow-up study in Japan. <i>Social Science and Medicine</i> . 347: 116778. など		



ゼミナール概要

目的、内容、方法等：

私たちも、私たちの身の回りの人たちもいつかは高齢者になります。高齢者や認知症に優しい地域（Age-friendly and dementia friendly communities）を考えることは、私たちの将来の暮らしを考えることでもあります。また、昨今、社会福祉分野でも科学的根拠に基づく実践やケアが求められ、「研究力」が益々必要になっています。本ゼミでは、既存の調査研究の動向を確認しつつ、フィールドワークや関係機関へのヒアリングなどを通じて、多面的に高齢期および超高齢社会の諸課題の所在や背景要因を把握できることを目指します。可能であれば、地域の関係機関と連携して対策にむけた一步を試みていきたいと思えます。卒業論文で統計解析に挑戦したいという方には個別にサポートしますのでご安心下さい（3年前期に開講される「社会福祉データの解析入門」の履修もぜひご検討下さい）。例年、春休みに卒業研究の中間報告会を行っています。フィールドワークやゲスト講師、卒業生や大学院生との交流会についてはメンバーの希望に合わせて調整しています（2024年度は裁判傍聴やケアマネージャーへのヒアリングなどを実施）。また、社会福祉士受験者の全員合格を目指して卒業論文は計画的に進め、4年次にはサブゼミという形で授業後に自主学習会を開催しています。

授業計画：

- － 3年前期には、私たちが暮らしている社会を見つめ直せるよう公的な統計や内閣府の孤立・孤独調査報告、全国社会福祉協議会の各種調査報告書の輪読を行っています。並行して、フィールドワークやヒアリングも行っています。レポートの書き方に関する演習も行います。
- － 3年後期には、卒業論文で取り組む課題（問い）を焦点化し、個別指導とグループワークを通じて、卒業論文の執筆構想に関する議論を重ねていきます。
- － 4年次は主に執筆中の卒業論文をピアレビューし、お互いに課題を確認していきます。就職活動や公務員試験など他の予定をあらかじめ予測して、計画的に取り組めるよう指導しています。たとえば、国家試験を控えている人には例年、前期中（8月末まで）に卒業論文の完成を目指して進めています。

担当教員からのメッセージ



ゼミとは学生たちでつくる「研究会」であり、主役は皆さんです。皆さんが主体的に提案し、協力し合えるととても充実したゼミになります（私も全力で伴走します）。皆さんの「強み」を大切にしつつ、自ら問いを立てて探求することの「楽しさ・歓しき」を味わってもらえたら嬉しいです。3年生になるとSW実習、国家試験対策、就職活動、卒業論文と盛りだくさんになるため、いろいろと心配かもしれませんが、お互いに支え合いながら一緒に乗り越えていきましょう！